

連帯経済としての ベーシックインカム

やまもり・とおる 同志社大学経済学部教授。一九七〇年生まれ。専攻は
社会政策。著書に『ベーシック・インカム入門』（光文社新書）。共著に『貧
困を救うのは、社会保障改革か、ベーシック・
インカムか』（人文書院）、『ベーシックインカム
は希望の原理か』（フェミックスブックレット）他。

山森 亮

て、私たちにとってベーシックインカムが意味するものを
考えていきたい。

本稿表題にある「連帯経済としてのベーシックインカ
ム」とは撞着語法どうちやくではないのかと、首をかしげる向きもあ
るだろう。連帯経済とは、連帯、互酬性、協同などの原理

にもとづいたオルタナティブな経済的实践であり、具体的
な実践形態としては地域通貨、マイクロクレジット、フェ
アトレード、消費者協同組合や労働者協同組合などがある。
老子の言葉として伝わっているものに、「授人以魚 不如
授人以漁（人に魚を渡すより、漁の仕方を教えた方がよい）」という

二〇二〇年七月一八日、アントニオ・グテーレス国連事
務総長は、普遍的なベーシックインカムの必要性に言及し
た。コロナ禍のなかで、スコットランド首相、ローマ法王
なども同様の発言をし、ブラジルやスペインでは緊急ベー
シックインカムの支給が決まったと報道されている。

ベーシックインカムとは、すべての人に、個人単位で、
資力調査や労働要件を課さずに無条件で給付されるお金で
ある（ただし前記ブラジルとスペインの給付は資力調査をとまなう）。

本稿では、コロナ禍のただなかでベーシックインカムを
目指した給付を行なっている自治体の挑戦の紹介から始め

言葉がある。連帯経済が皆で工夫して漁の仕方を学びあったりしながら漁をすることであるのに対して、ベーシックインカムは魚を渡しているだけではないか、というわけだ。果たしてそうだろうか。以下では、連帯経済の一環としてベーシックインカムを進めようとしている取り組みを紹介すると同時に、歴史的に見てもベーシックインカムはその考え方の始まりからして連帯経済的な取り組みとしてあったことを振り返りながら、今後を展望したい。

ブラジル・マリカ市の連帯経済

ブラジル・リオデジャネイロから東に約四〇キロのところに、マリカ市という人口約一六万人の自治体がある。

コロナ禍が襲うなか、同市では現在、比較的所得の低い四万二〇〇〇人の市民に、月三〇〇レアル（約六〇〇〇円）を地域通貨で支払っている。受給者は市人口の約四分の一にあたり、受給額はブラジルの貧困線の一六九%にあたる。さらにフリーランスで働く人には一〇四五レアルが支払われているという（ブラジルの一人当たり所得の中央値は月八六二レアル）。今年一月から五月にかけて、ブラジル全体で約八〇〇万の、リオデジャネイロ州では約一六万五〇〇〇の職が失われたが、マリカでは七八しか失われていないという。いったいここでは何が行なわれているのか。

話は二〇〇八年に遡る。市内のファヴェーラ（スラム）出身で労働者党（Partido dos Trabalhadores）のワシントン・クアカアが市長となり、市民参加型の連帯経済の実現をめざす。実現に向けて大きく動いたのはクアカアが市長に再選された後の二〇一三年から一五年にかけてのこと。市中心部を流れる川にちなんだ名前の地域通貨「ムンブカ」を発行するため、コミュニティ銀行であるマリカ人民共同体銀行（Banco Comunitário Popular de Maricá、通称ムンブカ銀行）を設立。比較的所得の低い世帯に月八五ムンブカを支給した。

支給を受けた市民はムンブカをブラジルの法定通貨レアルに換金することはできないが、市内の商店などの事業所がムンブカでの支払いを受け入れる場合には、それらの事業所はマリカ人民共同体銀行でムンブカをレアルに一对一で交換することができる。ただし交換額の二%を手数料として支払う。

市民への給付は当初世帯単位だったが、二〇一九年には個人単位となり、支給対象者は約四万二〇〇〇人まで広がった。額は月額一三〇レアル（正しくはムンブカだが、交換レートは一对一なので本稿ではレアルで表記する）となった。そしてコロナ危機への対応として二〇二〇年四月、月三〇〇レアルへと増額された。

現状、すべての市民に給付されているわけではないので、